

## みんなで支える森林づくり地域会議の開催状況について

## 1 日程

地域振興局	開催日	備考
佐久	(予定) 平成29年8月10日(木)	
上田	8月以降	
諏訪	平成29年7月26日(水)	
上伊那	平成29年7月13日(木)	
南信州	(予定) 平成29年8月8日(火)	
木曾	平成29年7月13日(木)	
松本	(予定) 平成29年8月31日(木)	
北アルプス	8月以降	
長野	8月以降	
北信	平成29年7月12日(水)	

・原則7～8月に開催するものとし、困難な場合は書面等で委員のご意見をお聞きする。

## 2 地域会議での主な意見

P2以降のとおり

## 地域会議での主な意見（抜粋）

### 【北信（7/12）】

- 対象年齢が少なくなっている間伐事業だが、採択条件等により使いにくいことから、条件を緩和するなど使いやすいものにしてほしい。
- 間伐分の予算が余っているのであれば、要望が多い事業項目に振り替えることも考えてほしい。
- 間伐と間伐以外の予算割合を見直し、その地域で要望が多い事業項目に使えるようにし、市町村が独自に使える仕組みが望ましい。
- 地域でも要望が多い森林づくり推進支援金の税額に占める割合を、現在の2割から増大していただきたい。
- 災害に強い林を造るため、里山の定義をある程度明確にし、その中でも集落に近い危険な箇所を中心に整備することが必要ではないか。
- 森林づくり推進支援金の緩衝帯整備について、どのような効果があったのか。
- 間伐及び搬出支援だけでなく、木材活用等に対する助成があれば地域で木材が利用されるのではないか。
- 間伐だけが森林整備ではないので、実施することにより生活環境等が改善されるような森林施業も事業項目に入れた方が良い。
- 地域の山を守り育てていくため、森林税の継続をお願いしたい。

### 【上伊那（7/13）】

- 具体的に国では出来ないことをやるとか、県の独自性ある使い道をもっと出していくことが必要ではないか。
- 里山の整備は続けてほしい。里山についても自治体等が強制的に手を入れられるような法律的な仕組みを設けてでも、里山を整備する必要がある。
- 森林税で実施してきた事業は、よくやってきたと思っている。間伐に関しては、今後も続けていくことが大切と思っている。
- 行政や所有者・地域が、山に価値観を見出せるような、意識の高揚を図れるようなことに、森林税を有効的に活用することがよいと思う。
- NPO等小規模な事業体は、補助金が使えなくなっても整備を続けている。お金が無く

ても危機感を持って、価値ある山にしていこうとする意志が湧いてくると思っている。NPOや小規模事業者が事業を使わなくなった反省を踏まえて、何のために森林整備をしていくのか、木を利用していくのか整理してから、森林税を続けるか考えるべき。

- 森林の境界の問題とか、山が崩れてしまっているなど、困っている住民の声を聞いて、森林税を使ってほしい。
- 着実に整備が進んできていることが、県民の目線に現れていない。森林税の広報や啓発活動に手立てが必要である。
- 集約化は、森林整備の原点であることから、継続して支援してほしい。今後の改善の方向性にあるように集約化や森林経営計画の樹立に行政がある程度関わっていただけることを期待したい。
- 循環型社会を構築するのは使命だと思う。山国長野県が全国に先駆けてお手本を示すくらいの気持ちで、県民の気持ちをどこまで引き上げることが出来るかが課題。
- 木材の利用価値を上げるため、砂防ダム等の堰堤の裏型枠に木材を活用すべきである。
- まとまった基金残高の活用方法を、思い切ってまとめて使ってはどうか。かなり力の入ったものができると思うので、一般公募等でアイデアを出して、いっぺんに使っていく方向もあると思う。

### 【木曾 (7/13)】

- 農地が林地化している現状があるが、地目が農地のままだと森林整備事業を入れられない。
- 森林整備事業は、事業実施後3～4年でも整備が必要な山林がある。5年程度で再度事業を入れられるとよい。
- 市町村職員のマンパワーが足りずなかなか難しい。森林整備の前提となる条件整備を計画的、専門的に行う人が必要。
- 税の使い方について、地域の実情に応じた柔軟な使い方ができるとよい。
- 窓口となる町村でどれだけ力を入れられるか、スタッフを揃えられるかが一番心配。町村でしっかりとしたスタッフを置くか、広域連合で専門家を配置するなどしないと進んでいかない。
- 常に山に入ってもらうには、気軽に入っていける仕組みづくりが大切。森林税を使ってモデルケースのようなものがないか。
- NPO等による森林整備の説明があったが、きのこや山菜などはNPOの人が利用するなどの仕組みができればよい。それにより、人間関係ができれば、また関心もわい

てくる。

- 木曾地域会議では森林税の継続でまともまっているので、継続を求めたい。

### 【諏訪（7/26）】

- 里山整備の方向性は良いが、航空レーザーの結果の緊急性のあるところだけではいけないと思う。実際に整備を実施するのは航空レーザーの結果箇所を含めた間伐の必要な区域全体になると考えられる。
- レーザーで特定するのもよいが、目視も必要。データオンリーではなく、安全重視でそこに住む方の意見を聞いて進めてほしい。
- 全体の進め方はよいと思う。小面積を個人ではやりたいが、出すとマイナスとなってしまう。まとまらないものをまとめることを事業にしては。又は小面積でも支援する仕組み。
- 森林整備の同意を取る際は不明者が10%程度おり、承諾しない人もいる。承諾しても場所がわからず、境界確定まで行けない。現地のことは市町村でと県の人というが、現地にいない人もいる。やるのは大変。
- 市町村主体はよいが、所有者がわからないということと、公図から森林計画図ベースの地番図、林地台帳を作る必要があり、実測公図ができていない市町村は大変である。県等で補助金を作っていただきたい。
- 木が大きくなってどうしたらよいかとの相談について、主伐の補助がないため、市では答えづらい。
- 森林簿上の森林道沿い・川沿いの面積の小さな森林も使えるようにしてほしい。
- 木育は実際山に触れることが大事。子供の時焚き物の背負い出しをやった。子供たちに材料に使う原木を運ぶ等の授業(体験)を事業にしてはどうか。小径木でも子供等がコースターや工作で楽しめたらよいと思う。諏訪市は子供祭りでコースターを作り子供たちが楽しんでいる。
- キノコ、山菜等で、若い人たちに山に関心を持ってもらっては。開山祭、植育樹祭等に支援があれば。
- 推進支援金等は各振興局ベースでの配分(一律ではなく)を期待する。振興局になったので、本庁ではなく局判断ができる制度にして欲しい。